

授業科目名	【G】 【EF】	教養演習Ⅰ・Ⅱ 教養演習Ⅰ・Ⅱ	区分 選択必修	開講年次	【G】2 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	基本科目						
授業形態	対面授業						
担当形態	単独	【G】 【EF】					
施行規則に定める科目区分又は事項等							
サブタイトル	ケース・スタディでキミを変革せよ			担当者	野呂 一郎		
授業概要	概要	ケース・スタディとは、米ハーバードビジネススクール(世界最高の経営大学院)で半世紀前に創始された経営学の学習方法で、ケースと呼ばれる企業のリアル・ストーリーを題材に、ディスカッション方式でその企業の意思決定や戦略などを分析し、評価する試みだ。おそらく日本の大学初の試みになるが、自分で調べ、考え、発表し、仲間とディスカッションし、チームを率い、相手を説得し、問題解決ができる力がつくのは間違いない。ケースは野呂が英語と日本語で発表した題材を使うので、希望があれば英語でケース・スタディを行ってもよい。					
	到達目標	企業の問題点を発見し、分析し、問題解決を提案する能力を身につけることができるようになる。加えて、自分で考える力、グループでディスカッションし、チームワークで問題を解決するコミュニケーション能力と、問題解決能力を身につけることができる。					
履修条件	特にないが、経営学関連科目をなるべく多くとっておくと、この講義が理解しやすい						
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	- (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)					
他科目との関連性	経営学科目全般と深く関わるので、関連科目をなるべく多く取ることを奨励する						
教科書	清和大学 紀要 第24号 Case Study; Omokawa Timber Company						
参考書	「ナウエコノミー 一新・グローバル経済とは何か」(学文社 野呂一郎)						
評価方法	平常点(例えば課題提出やレポートなど)(90%)、受講意欲・態度(10%)で評価する						
フィードバック方法	教員が採点・評価をした小テストやレポートを返却する						
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。単元の内容についての理解や表現に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、試験欠席など、評価不能の場合には「F」とする。						
その他	特になし ※Gカリ:【Ⅰは選択必修(A)・Ⅱは選択必修(B)】 / EFカリ:選択必修(y)						

授 業 科目名	【G】 教養演習Ⅰ・Ⅱ	区 分	開講年次	【G】2 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
	【EF】 教養演習Ⅰ・Ⅱ	選 択 必 修				
授業内容	<p>まずケース・スタディの紹介や理論を説明し、その後、実践を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケース・スタディとは何か 前編</li> <li>2. ケース・スタディとは何か 後編</li> <li>3. ケース・スタディ 実践(重川材木店)①調査</li> <li>4. ケース・スタディ 実践(重川材木店)②グループワーク</li> <li>5. ケース・スタディ 実践(重川材木店)③発表</li> <li>6. ケース・スタディ 実践(北越工業株式会社)①調査</li> <li>7. ケース・スタディ 実践(北越工業株式会社)②グループワーク</li> <li>8. ケース・スタディ 実践(北越工業株式会社)③発表</li> </ol> <p>その他、学生が指定する企業について、野呂がケースを用意し、ケース・スタディの実践を行う。 ケース・スタディは時間がかかるため、一つのケースを何度かに分けて行う。</p>					
予習内容	<p>前もってケースを読んだり、ケースでとりあげた企業について調べてくることを課す。 授業ごとの予習時間は120分程度を目安としてください。</p>					
復習内容	<p>授業で学んだ内容について振り返り、ノートを整理する。 授業ごとの復習時間は120分程度を目安としてください。</p>					

科目コード A010-3-Y・A010-4-Y